

東和便り



2020年度 第27号

2021.3.24 和歌山市立東和中学校

今、この時を生きよ

校庭の桜が開花しました。冬の寒さの中では、枯れてはいないかと心配になるような様子だったそれぞれの木は、私たちの見えないところでしっかりと深く広く根をはり、力をたくわえていたのだとわかります。花を咲かせるには、目立たなくとも、日々こつこつと過ごす時間が必要であることを、校庭の桜は教えてくれます。

春は、別れと出会いの季節だと言われます。在校生のみなさんは、お別れ式、卒業式とも毅然とした態度で卒業生を送り出してくれました。その姿に、中学生として過ごしてきた時間が、少しずつ根をはり、少しずつ花開いてきたのではないかと、とても頼もしく思いました。4月には、新しく1年生を迎えます。先輩の堂々とした姿と優しさであたたかく迎えましょう。

春は、別れと出会いの季節であるとともに、終わりと始まりの季節とも言えます。この春に、何を終わらせ、何を始めるか。みなさんには、本当になりたい自分は、どのような自分なのかを思い描き、その実現に向け、終わらせること、始めることを考え、実行することをおすすめします。

ここで、卒業式の式辞で、卒業生に送った詩を掲載します。東日本大震災から10年、新型コロナウイルスに翻弄された1年、このような時だからこそ、みなさんとともに考えたいのです。

朝に種を蒔き

夕べに手を休めるな。

うまくいくのはあれなのか、これなのか

あるいは、そのいずれもなのか

あなたは知らないからである。

蒔いた種がうまく芽を出すかどうかは、誰にも分かりません。どの種も芽を出さないかもしれません。未来の「時」は、誰にも知ることができないのです。それでも、いや、それだからこそ、種を蒔き、耕す手を休めるなど詩は伝えていきます。地に足をつけて、自分の人生を精一杯生きよというのです。明日が見えなくても、今日を生きよ。今、この時を生きよ。涙を拭って前に進め。明日に向かって種を蒔け。この詩は、そう呼びかけています。

みなさんには、何があっても、生きて生きて、生き抜いてほしい、これからの人生において、いつも、「今、この時」を精一杯生きてほしいと願います。



東和中学校中庭の桜
昨日(三月二十三日)撮影